

怠学に陥った男子中学生の事例

1. 主訴 怠学

小学6年生 教研式標準学力検査

国, 算 平均学力偏差値 54

2. 対象 中学校3年 男子, A男

中学2年生 教研式標準学力検査

国, 社, 数, 理, 英

平均学力偏差値 45

3. 問題の概要

中学2年生の11月ごろから、種々の反社会的行動を行っている他校の中学2年生3人の仲間と交際するようになり、3学期から3年生の1学期にかけて、次のような行動が発現した。

- 授業中に私語をしたり、席を離れることが目立ってきた。
- 学習意欲が低下し、学習成績が下がってきた。
- 他校の中学2年生Nら3人の仲間とそのかされて、ときどき授業中に教室から抜け出すようになってきた。
- 朝の始業に遅刻するようになってきた。
- デパート徘徊や夜間外出が多くなってきた。
- Nらと共に万引きをしたり、喫煙、飲酒をするようになってきた。

4. 資料

(1) 本人に関する資料

● 身体

身長, 体重, 体型ともに平均的である。

小学2年生のとき滑り台から転落して左腕を骨折し、約1か月間通院治療をした。また中学1年生のとき、自転車で転倒して右足を骨折し、約2か月間入院治療をした。現在はそれらの後遺症はない。

● 知能・学業

● 知能 教研式知能検査 知能偏差値 59

● 学業 小学5年生 教研式標準学力検査

国, 算 平均学力偏差値 52

● 学習意欲

指導要録によれば、小学校では1～6学年を通して「積極的ではあるが、学習態度に落ち着きがない。作業は乱雑である。」となっている。中学校2年時には、「落ち着いて意欲的に学習に取り組めば、向上が期待できる。」と記されている。

● 性格

指導要録によれば、小学校1～6学年を通して「落ち着きがない。いたずらが多く、友達に嫌われている。行動にけじめがなく、友達からの信頼がない。」ということが指摘されている。中学生になってからも、その性格、行動の傾向は同様である。

● 趣味・特技

● 書道塾に通っており、4段の資格を持つ。

● 熱帯魚の飼育をしている。

● 学校生活

● 授業に興味を示さず、勉強に集中できない。

● 教師に不信感をもっている。

● 進路が定まっておらず、将来の見通しが確かでない。

● 友人関係

中学2年生の11月ごろ他校の中学2年生(Nら3人仲間)とつき合うようになってから、それまで交際のあった級友たちが自然に離れてしまい、中学3年生の4月現在、学校内では孤立している。

● 家庭生活

家に居たがらない。特に、父親が酒気を帯びて家に居るときはいらいらしている。

小学3年生から5年生のころ酒気を帯びた父親